



病院キャラクター「カリヨンの樹」に住むロボットたち

# 埼玉県立小児医療センターだより

## 小児専門病院で初めてとなる特定行為研修の開講と 埼玉県小児看護連携会議の開催

副院長兼看護部長 **中田 尚子**



少子高齢化の進展に伴って需要が増大する在宅医療の推進を趣旨として平成27年10月1日創設された特定行為研修制度は丸10年を迎えました。出生率が低下し少子化が進む中で医療の進歩により医療的ケア児は年々増えています。

小児医療においては特定行為の実施は創設当初から慎重に行うことが明記されていました。そのため、当院における特定行為研修修了看護師（以下特定看護師とする）の活動はほぼ不可能と判断していました。

そのような中で令和4年認定看護師B課程 特定行為研修 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連を修了した看護師が誕生しました。気管切開をしている患者さんは当院に200人以上います。その多くの患者さんは気管切開外来で気管カニューレ交換を行っています。外来の待ち時間は長く患者さん・ご家族のご負担になっていました。そこで、特定看護師が気管カニューレ交換を実施し、外来待ち時間短縮を目指しました。気管カニューレ交換を特定看護師が実施すると、すぐに待ち時間は短縮し医師の負担軽減にもつなげることができました。

そこで、多くの特定看護師を育成したいと考え自院で特定行為研修を開講するために準備を進め、令和6年9月5日に小児専門病院としては初めて特定行為研修指定研修機関に指定されました。研修期間は10か月間で毎年4月と11月に開講し、区分は呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連とろう孔管理関連です。第1期生（R6年11月～R7年8月）院内5名・院外2名は、すでに活動を始めています。現在第3期生8名が受講中です。

特定行為研修を開講したことでキャリアデザインの選択肢が広がり、特定看護師を目指す看護師も増えモチベーション向上につながり、院外からの受講生を通して地域医療機関との連携強化にもなっています。

厚生労働省からは「第8次医療計画において看護師の特定行為研修の体制整備等について」が出され、今後ますますの育成が求められています。医療的ケア児を支えるためには特定看護師の育成のみならず地域医療機関との連携強化が重要です。これまでも在宅看護研修会などは開催してまいりましたが、今年度初めて地域の病院を対象に埼玉県小児看護連携会議を開催いたしました。多くの看護管理者の方にご参加いただき、連携強化に向けてディスカッションすることができました。次年度以降も継続開催を目指していきます。

地域医療機関の方々をはじめ関係機関の皆様のご指導・ご協力を得て、子どもたちのために小児専門病院の看護師として今後も努めてまいりたいと思います。引き続き、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

特定行為と研修制度については、こちらをご参照ください。

▶厚生労働省ホームページ

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000070423.html>



### 埼玉県立小児医療センターだより 第34号 ご案内

- 診療部門紹介 代謝・内分泌科…………… 2
- 診療部門紹介 心臓血管外科…………… 3
- 看護部門紹介 12A病棟…………… 4
- コ・メディカル部門紹介 検査技術部…………… 5
- 第11回地域連携懇談会開催のご報告…………… 6
- 祝日開院日のお知らせ…………… 6
- 医療機関の皆様へ 受診のご案内…………… 6

## 診療部門紹介

# 代謝・内分泌科

科長 **あいづ かつや 会津 克哉**

代謝・内分泌科は、主にホルモンの異常及び先天代謝異常による病気を診療しています。

### 受診時の主訴

1. 身長に関係すること
身長が小柄である（低身長）
身長の伸びが良くない
身長の伸びが良すぎる（高身長）
2. 体重に関係すること
体重の増えが良くない（やせ）
体重が増えすぎる（肥満）
3. 身体の外見上に関係すること
陰毛が生えてきた（低年齢にて）
胸がふくらんできた（低年齢女子）
生理が始まった（低年齢女子）
4. 甲状腺が腫大している
5. 学校検尿で尿糖陽性を指摘された
6. 新生児マススクリーニング検査で異常を指摘された など

### 診療している疾患

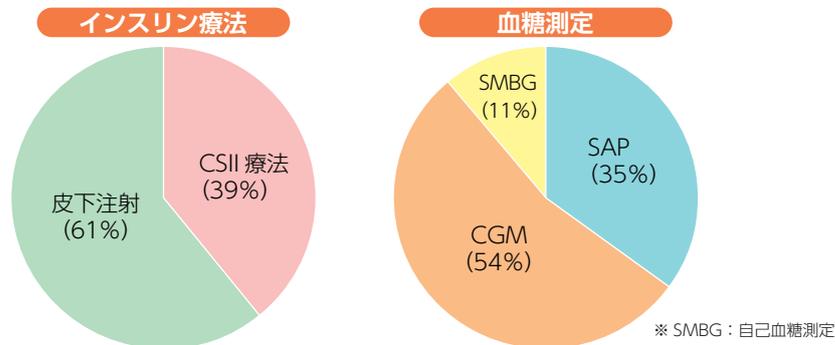
成長ホルモン分泌不全性低身長症
ターナー症候群
SGA性低身長症
肥満（肥満症も含む）
思春期早発症
甲状腺機能亢進症
甲状腺機能低下症
尿崩症
糖尿病（1型、2型）
先天性甲状腺機能低下症
先天性副腎過形成症
フェニールケトン尿症
くる病 など

治療は医師だけでなく、食事療法が必要な疾患では、管理栄養士も積極的に関わっています。

近年、医療の進歩は目覚ましく、新しい薬剤及び機器の開発に伴い治療方法も変化してきています。

1型糖尿病においてはインスリン治療が不可欠ですが、従来の頻回皮下注射（1日4回程度）による治療だけではなく、インスリンポンプを用いたCSII療法（持続皮下インスリン注入療法）、さらには持続皮下血糖モニター（CGM）の登場により、皮下組織に穿刺したセンサーを用いて間質液中のグルコース濃度を連続して測定する機器を併用したSAP療法も普及してきています。また、良好な血糖コントロールを維持するためには血糖測定が必要ですが、CSII療法を行っていない患者さんにおいてもデキスコム G7などのCGMを用いることで、血糖変動を容易に知ることができるようになりました。

以下が、当科の治療状況です。



これらの治療方法を個々の患者さんごとにその時の生活スタイルに合わせて、適宜相談しながら対応しています。

当科では糖尿病専門医や内分泌専門医の資格を有した小児科医が、それぞれの専門領域において新しい治療を進んで取り入れ研鑽を重ねることで、患者さんのQOLが少しでも向上するよう心がけて診療を行っています。また、当科で診療する疾患には、小児期のみならず成人期の医療を必要とするものもあり、将来的に成人診療科へ円滑に引き継ぐことを見据えた移行期医療にも取り組んでいます。

今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 診療部門紹介

# 心臓血管外科



のむら こうじ  
 医長 野村 耕司

心臓血管外科は埼玉県立小児医療センター内に設置されたハートセンター内で活動しており、心臓血管外科専門医3名、同専攻医1名、心臓血管麻酔専門医1名で構成され、「For the future, for the children こどもたちの未来は私たちの未来」の病院理念に基づき、心臓病を持つ子ども達とその御家族に丁寧に良質な外科治療を提供しています。

また院内・外を問わず突然、発症する急性呼吸不全や循環不全の患者さんに対して、24時間体制で緊急ECMO(体外式心肺補助装置)の対応を行なっています。2017年から隣接する、さいたま赤十字病院のハートチームと連携して、小児期に心臓手術を受けた患者さんに対する成人期移行医療にも力を注いでおり、心臓病の患者さんが生涯にわたり安心して治療を継続できる環境整備に取り組んでおります。

### 心臓血管外科の取組

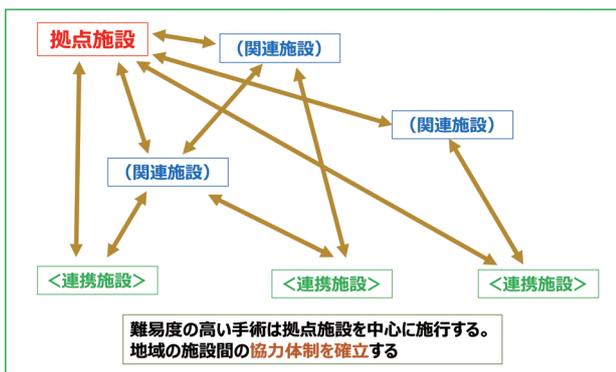
#### 1. 質の高い手術の提供に向けた教育

近年、少子化による出生数減少、胎児診断による中絶、内科的カテーテル治療の進歩などにより小児心臓手術件数は全国的に減少し、若手医師の外科離れもあり次世代育成の環境は厳しさを増しております。このため日本小児循環器学会が全国小児心臓手術施設の集約化を推進し、当センターは全国9区画のうち関東ブロックの拠点施設として、関東圏の小児心臓手術を行う使命を担っております。学会育成プログラムに準じて、執刀経験、周術期管理、を継続することで地域に貢献できる次世代の小児心臓外科医育成に取り組んでおります。

**拠点施設：年間手術数150以上、難易度の高い手術を行う施設**

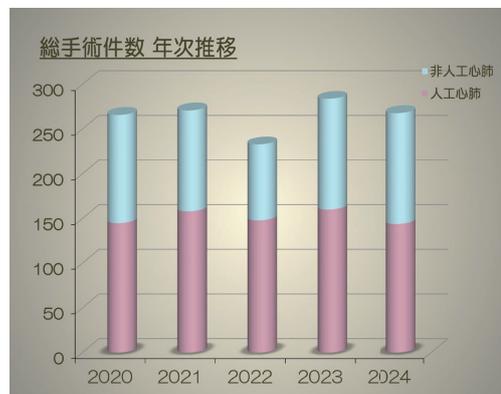
**関連施設：小・中規模の手術施行施設**

**連携施設：手術を行っていない施設**



#### 2. 徹底した医療安全のためのチーム連携

2017年に当センターがさいたま新都心に移転して以降、年間約250件の手術を行ってきました。手術室内外を問わず①コミュニケーション・意思疎通の確認・徹底②人工心肺着脱手順の統一化③術式の標準化を徹底し、ヒューマンエラーリスクを最小限にして医療事故防止・医療安全に務めており、人工心肺トラブルや重大アクシデントの発生ゼロを継続しています。



#### 3. 成績向上への新しい取り組み

2025年から治療成績の向上、重症心疾患児の遠隔期の心機能改善に向けて①新しい心筋保護液(del Nido液)の導入②単心室疾患に対する心筋培養による心不全治療に関する全国多施設研究への参画③最重症疾患の1つである左心低形成症候群に関する多施設研究レジストリーへの参画に取り組み、当センターの成績向上、我が国からの新しいエビデンスの究明・発信に貢献しております。

#### < 心臓血管外科スタッフ >

ハートセンター長(科長兼務)：星野 健司  
 医長：野村 耕司、濱屋 和泉(心臓麻酔専門医)、  
 鷲垣 伸也、清水 寿和  
 医員：小倉 翔太





## 看護部門紹介

# 12A病棟



看護師長 <sup>すずき</sup> 鈴木 <sup>やすこ</sup> 泰子

12 A病棟は、病院の最上階 12 階に位置し、プレイルームの大きな窓からは、天候に恵まれた日には遠く富士山や東京スカイツリーを望むことができ、眼下には高速道路を走る車や、線路を行き交う電車が見え、子どもたちは「今日は何色の電車が通るかな?」と楽しみにしています。

病床は 36 床を備え、他の一般病棟よりも少し広めとなっています。内訳は、個室 12 室、4 床室 6 室です。患者さんの状態に合わせ、柔軟に対応できる環境を整えています。また身体的なサポートが必要な患者さんが安全で快適に入浴できるように、機械浴槽を完備しています。



病棟入口で病院キャラクターがお出迎え



プレイルーム窓からの風景



機械浴槽

## 病棟の特徴

### 多くの診療科と連携



医師・病棟看護師・在宅看護師・薬剤師とのチームカンファレンスの様子

内科系と外科系が混在する病棟です。主な診療科は、総合診療科、神経科、代謝・内分泌科、感染免疫・アレルギー科、消化器・肝臓科、整形外科、眼科など、多岐にわたる診療科と連携し、医療・看護を提供しています。多くの診療科と連携するため毎朝、多職種と一緒にチームカンファレンスを行っています。

### チーム医療の推進

院内の IBD（炎症性腸疾患）センターやてんかんセンターなど、院内の専門チームに所属しています。IBDセンターでは、中学生・高校生を対象とした教室で講演を行い、自立に向けた支援を行っています。

てんかんセンターでは、看護師を対象にした痙攣発作時の対応研修を実施し、緊急時にも落ち着いて対応できる体制づくりに取り組んでいます。

### 教育支援との連携

併設のけやき特別支援学校と連携し、入院治療を受けながら継続的な教育支援を受けることができます。

入院中少しでも楽しく、安心して過ごせるよう、笑顔を大切に日々のケアに取り組んでいます。子どもたちの力を引き出せるよう、年齢や成長に合わせた支援を行い、笑顔があふれる病棟を目指しています。



# コ・メディカル部門紹介 検査技術部



副部長 **こやま まさひろ**  
**小山 真弘**

検査技術部は、大きく分けて生理検査、検体検査、病理検査、マスキング検査に分かれています。心電図・超音波検査など直接身体を調べる生理検査、体から取り出した血液や尿などの検体を調べる検体検査（尿一般検査、血液検査、生化学・免疫検査、細菌検査、遺伝検査、輸血検査）、組織や細胞から病気の確定診断を行う病理検査、先天性代謝異常などの病気を見つけるためのマスキング検査で構成されています

## マスキング検査室



**自動 DNA 抽出装置**  
新生児の微量ろ紙血液検体から効率よくDNA抽出ができます

## 病理検査室



病理医と検査技師の組織カンファレンスの様子

## 輸血検査室



**血液型分析装置**  
血液型や不規則性抗体検査を迅速に行うことで、安全な輸血を行えます

## 生化学・免疫検査室



**生化学分析装置**  
肝機能や腎機能などの状態を表す項目の測定に使用します

## 生理検査室



**脳波検査**  
てんかんなどの疾患に必要な検査です

## 細菌検査



様々な病原菌やウイルスを特定し、抗生物質の投与や治療に貢献しています

## 血液・一般検査室



**フローサイトメーター**  
血液疾患の鑑別に使用し、迅速な疾患の診断に貢献しています

## 遺伝検査室



**次世代シーケンサー**  
次世代シーケンサー遺伝子解析を迅速に行えます

## ISO15189 認定証と品質保証施設認証



検査技術部は、他部門と連携してチーム医療を推進し、24時間体制で患者さんの診断や治療に貢献できる検査室を目指しています。

また、日本臨床衛生検査技師会の品質保証施設認証と国際標準検査規格 ISO15189 の認定を継続取得し、国際的にも信頼される正確で迅速な検査結果のご提供に日々努力しています。

## 第11回地域連携懇談会開催のご報告



令和8年2月5日、小児医療センター講堂にて第11回地域連携懇談会を開催しました。第1部では「子どもたちの未来を見据えて小児医療の深化と移行期医療」をテーマに講演を行い、第2部の懇談会では、日頃よりご協力いただ

いている地域関係機関の皆さまと交流を深める貴重な時間となりました。

ご参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

地域連携・相談支援センター スタッフ一同

## お知らせ

以下の休日は通常どおり  
外来診療を行います。

**5月6日** 水

憲法記念日の振替休日

**9月23日** 水

秋分の日

**11月23日** 月

勤労感謝の日

※ 予約電話の受付も通常どおりです。  
※ 祝日開院日に救急外来を受診した場合の会計は、休日加算の対象となります。

## 医療機関の皆様へ 受診のご案内

### ①患者さん(ご家族)からの予約

紹介元医療機関

紹介状  
(診療科が明記  
されているもの)

患者さん  
予約の電話

### 予約専用電話

初診受付時間 14:00~17:00(土・日・祝日除く)  
再診受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日除く)  
一般外来 ☎048-601-0489  
保健発達部門 ☎048-601-2165

患者さん  
来院

### 受診当日にお持ちいただくもの

- ① マイナ保険証または資格確認書
- ② 医師の紹介状
- ③ 母子健康手帳
- ④ 医療券  
(公費負担を受けている方)

### ②医療機関の先生からの予約・お問い合わせ

紹介元医療機関

緊急診療  
(当日診療)の場合

- ・当日の受診ではないが  
早期診療が必要な場合
- ・該当する診療科が  
不明確な場合

電話交換手へ  
緊急性があることをお伝えください  
(365日 24時間対応可能)

小児医療センター  
代表電話  
☎ 048-601-2200

電話交換手へ  
相談内容をお伝えください  
受付時間 (9時~17時 土日祝除く)

診療科が明確な場合はその「該当する診療科医師」へおつなぎしますので、ご相談ください。

休日・夜間帯又は、診療科が不明確な場合は「救急診療科医師」へおつなぎしますのでご相談ください。

地域連携・相談支援センター  
(地域連携担当)が対応します  
現在の症状が分かる診療情報提供書を  
FAXでお送りください  
医師に確認後、ご連絡します  
FAX: 048-601-2237

## 病院へのアクセス



### ■公共交通機関をご利用の方

- ・JR 京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
- ・JR 埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
- ※ 歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

### ■お車をご利用の方

- ・駐車場は有料になります。
- ・機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。無理のない範囲で公共交通機関のご利用をお願いいたします。  
(センター敷地内は全面禁煙となっておりますので、ご協力をお願いいたします)



当センターHP

埼玉県マスコット  
「コバトン」 & 「さいたまっち」



### 埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2  
Tel ▶ 048-601-2200 (代表) Fax ▶ 048-601-2201  
E-mail ▶ scmc@saitama-pho.jp  
U R L ▶ <https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html>

埼玉県立小児医療センターだより第34号  
令和8年(2026年)3月発行  
編集・発行 埼玉県立小児医療センター

総フォロワー数  
8,000人以上!

埼玉県立小児医療センター公式 SNS ぜひご登録ください!

YouTube Instagram X Facebook

